

☆公害による健康被害を許すな!

☆自然環境・生活環境の破壊を許すな!



コウノトリ
画：橋本正弘

大阪から公害をなくす会 ニュース

大阪から公害をなくす会

大阪市此花区西九条1丁目4-9

高田ビル 〒554-0012

TEL 06-6463-8003

FAX 06-6463-8202

oskougai@coast.ocn.ne.jp

発行責任者 芹沢 芳郎

年間購読料一部2,000円(送料共)

郵便振替 00910-7-300387

昨年(2007年)は公害環境問題によって激動の年でした。異常気象の頻発が地球温暖化の危険を実感させ、IPCC(国連・気候変動に関する政府間パネル)第四次報告は温暖化が人間の経済活動の結果で緊急な対応を必要とすることを明らかにしました。そして世界的に高まる関心の中でバリ島で開かれたCOP13(国連気候変動枠組み条約第十三回締約国会議)では、地球温暖化防止の世界全体の取り組みの新しい数字目標と枠組みの決定を目指して激しい討論が行われました。会議は世界の注視の中で激しい論議の末、IPCC報告に依る温室効果ガスの大幅削減の必要を確認し、長期的でグローバルな削減目標を含む枠組み作り作業の日程を決め、早速取り組みを始めることを確認しました。最大の目標だった削減数字の明示は出来ませんでした。全ての国が参加してそれに向かう趣旨と行程を決めるといふ成果を上げることが出来ました。

年頭のご挨拶

地球温暖化対策をめぐる

対立の根本をしっかりとつかみ、

公害をなくす運動の新しい波を

大阪から公害をなくす会 会長 芹沢 芳郎

一方この会議をつうじて、米国の削減目標数字の明記に反対し、前向きな合意を阻止する動きに終始しました。そうした米国の追随し、米国の支援に徹した日本に厳しい非難と疑いの目が向けられました。日本政府の真意は何処にあるのでしょうか。米国の追随の外交姿勢が根本にあるのはもちろんですが、日本の環境政策そのものが、世界最高水準の

「環境税反対」の頑固な方針に追随し縛られることになり、有効な規制行政は行われず、世界最高水準の環境技術を自慢しながら、京都議定書の削減目標の達成は絶望的です。大阪でも公害部局の統廃合などによる環境規制行政の弱体化は目に余る状況です。大阪の自動車交通公害は依然厳しく、公害をなくす強力な規制と被害者の救済が求

この経済主義の誤りを明らかにし、打ち破る運動を築いていくことが私達の新しい年の仕事だと思えます。今年から地球環境問題の新しい枠組みと目標作りの取り組みが様々な形で行われますし、住民運動の国際的な交流も大切です。昨年の「大田グリーンコリア」との交流も貴重な経験でした。そして温暖化被害の最先端に立ち向かう「国際さんご礁年」の行事もあります。広く世界に視野を拡げて多くのことを学び取り交流を試みると共に、アスベスト公害など公害環境施策の怠慢、依然とした開発政策と道路づくりから生じている環境汚染と被害の発生などにたいして地元住民と共に力を合わせて運動し、支援し、行政に改善を要求して環境改善の流れを作り出しましょう。

「地球規模で考え足下から行動しよう」という言葉がさらに現実味を帯びてきたことを訴えて新年の挨拶とします。